

# 試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関 衛生研究所  
 所管課(室) 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	結核・感染症対策	結核疫学調査における解析能力の高いデータベースの構築	平成23年度から25年度まで実施したVNTR分析でJATA15ローカスによる解析結果でデータベースを構築してきた。今回は、追加分析と新手法を取り入れることで更に解析能力の高いデータベースの構築を図ることで、全国規模での比較解析を可能とする。	結核菌の分子疫学解析で過去3年間に構築してきたデータベースを追加分析・新手法により、更に充実させる。	26	28	A	結核菌株の解析能力の高いデータベースの構築を行い、分子疫学的解析をすることにより、科学的に根拠が付与された結核対策の立案が可能となる。	平成23年から25年までの研究成果を基盤としてさらに対象範囲の拡充と手法の充実を積み上げる意義の高い研究である。平成23年から25年までに構築された部分と、新たに加わる部分が質や量の面でどのように異なるかが分かる成果の見せ方を工夫していただけると、今後の評価がスムーズになると思われる。(加藤)

試験研究機関名 農業総合センター(本部)  
 所管課 農業振興課/林業研究センター

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	自然・環境と共生する農林水産業の推進	「イノシシ被害に負けない農村づくり」技術確立実証事業	イノシシの行動データに基づいた営農管理や農地利用方法改善を行い、効率的に被害を防除する方法を確立する。また、先進集落と後進集落での対策についての意識差を明らかにし、今後の普及指導活動、各市町村での対策推進活動等への一助とする。	イノシシの行動範囲、行動パターンについて調査を行い、農地利用状況などの情報と合わせてGIS解析する。また、被害対策意識調査を行い、一度結果をフィードバックした後、意識や対策状況の変化について再度調査を行い、対策に対する意識変化などを確認する。	25	29	A	農作物の被害防止対策については現地からの試験要望が高く、研究ニーズは高い。	鳥獣害への対策は周辺他県との連携が必要になると考えられるため、予め手法等を調整して今後の広域対策に向けたデータの比較解析の準備を進める事が望まれる。(信濃)
3	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進	ナツハゼ栄養繁殖苗の生産技術	一定の品質を有する果実の安定生産を実現することにより栽培者の所得の向上に資する。加えて、不足している加工販売用原材料の安定供給を実現することで新たな特産品を活かした6次化の実現を目指す。	検討する繁殖技術はさし木及びつぎ木とする。さし木については当センターでこれまで培ってきた基礎技術を基盤として実用化を目的とした試験を実施する。つぎ木については基礎技術の検討を行う。	26	30	A	高い食品機能性を有するナツハゼに対する注目度は年を追うごとに高まってきており、最近では6次化に向けた取り組みも積極的に行われている。課題となっている原材料不足の解消に向けて、速やかな対応が必要である。	福島県産の徳用樹としての高いニーズに応えるために、挿木苗生産について既存の技術開発の基礎の上で、さらに実用化を進めると同時に、新たな取り組みとして接ぎ木技術の開発による苗木成長の加速化、さらには材料としての優良野生株の探索という課題構成はきちんと組み立てられていると評価します。ただし、盛りだくさんなので、具体的な研究手法等について十分に吟味して、着実な研究推進につとめていただけるといいかと思えます。(田中)

# 試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ  
 所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
4	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	再生可能エネルギーなどの技術開発に関する取組	地中熱利用無散水融雪システムの高効率化	地中熱を利用した無散水融雪システムについて、使用部材や配管形状といった各種条件を検討し、融雪速度を向上とランニングコストの削減を図る。	地中熱を利用した無散水地中熱融雪について、配管材質・形状や路盤材質を変更して融雪実験を行い、より効率のよい融雪条件を検討する。また、冬季に備えて夏季に放熱帯から熱を採熱し地中に蓄熱する実験を行う。	26	28	C	再生可能エネルギー推進の県施策に合致するものであり、H23からH25まで実施している浅部地中熱利用技術の開発の発展型でもあることから、実用化を目指して実施すべきである。	地中熱の有効利用をするシステム開発としては必要と思う。実験施設の敷設は経費がかかること、熱伝導は理論解析が容易なことから、舗装や土質の熱伝導に関わるデータを取得してのシミュレーションを行い、その結果を踏まえて取り組んではどうか。熱の解析に加えて、土木工学的な地中埋設物の強度、耐久性の検討による最適化が必要である。（小沢）
5	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	再生可能エネルギーなどの技術開発に関する取組	高効率・高品質溶接技術の開発と事業化促進	ハイテクプラザの技術シーズである狭開先溶接技術の普及性を高め、企業での活用を促進する。これにより県内企業の競争力強化と再生可能エネルギー関連産業等への参入促進を図る。	狭開先溶接技術に関するこれまでの基礎研究結果を基に、技術を標準化し企業への普及性を高める。また、PR用試作品を製作して共同研究企業に配布し、実用化を促進する。	26	28	B	ハイテクプラザで培った狭開先溶接技術を企業で活用しやすいよう標準化するものであり、再生可能エネルギー分野への参入促進にも繋がるものであることから、取り組むべきである。	狭開先溶接技術のシーズに基づき、展開を図ろうとする取り組みは理解できる。再生可能エネルギーへの取り組みとして、浮体製造等に関わる技術としてばかりでなく、本来の風車等への応用についてもさらにニーズ調査を行いながら、溶接ロボットを用いた効果の抽出を実施して最適化されるべき項目を検討してほしい。（小沢）
6	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取組	医療用マイクロ流路デバイスの開発	iPS細胞の培養における細胞凝縮や幼児の血液検査における測定時間の長さといった課題解決を図るため、新たなマイクロ流路デバイスの開発が求められている。	ハイテクプラザが保有する微細形状金型作製技術や射出成形による高転写技術を用い、細胞培養用及びバイオマーカー用マイクロ流路デバイスを開発する。	26	28	B	ハイテクプラザの技術シーズを活用して高機能バイオチップの製造技術を開発するものであり、県が重点的に取り組む医療機器関連産業の育成にも繋がるものであることから実施すべきである。	マイクロ流路デバイスは種々の研究機関により開発が行われ、競争が激しい分野と考えている。研究機関に所在するシーズを活用して、どのような機能や作用を持つ機器に応用するか、高性能バイオチップを必要とする具体的な川下企業の顧客との連携が不可欠である。連携機関との意識あわせを綿密に行い、具体的な開発目標、計画を設定し研究開発を進めてほしい。（小沢）
7	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取組	福島県オリジナル酵母の改良	高い吟醸香を特徴とする福島県オリジナル酵母「うつくしま煌酵母」を改良し、酸味を抑えた酒質用の酵母を開発する。これにより、本県の酒質向上とオリジナル性を向上し、市場での差別化に繋げる。	「うつくしま煌酵母」を変異させ、香り高く酸味の少ない酵母を選別する。さらに、選別酵母から小仕込み、試験醸造を行うことにより、より優れた酵母を選出する。	26	28	B	鑑評会で日本一に輝く福島県の酒のさらなる改良に結び付けるものであり、日本屈指の県内酒造業を今後も牽引して行く上で実施することが必要である。	事業背景・計画を拝見しました。現状酵母について、酒造業界からの引き合いに関する数値データ、酸味改善による市場性拡大予測をお聞きしたいです。また、他県でも低酸性のカプロン酸エチル高生産酵母の開発が行われているようです。これを踏まえて、福島県のオリジナル性強調、市場での差別化のお考えをお聞かせ下さい。（仲川）